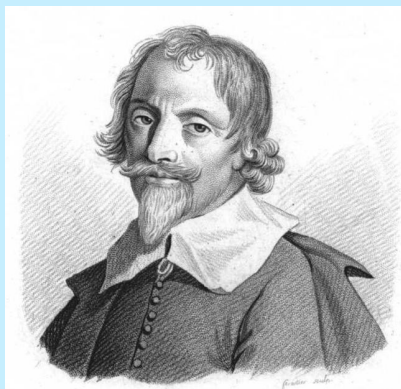


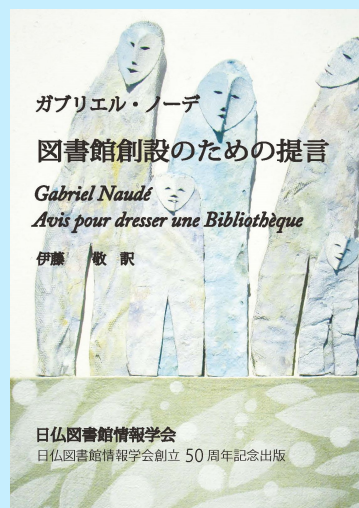
# 思想家としてのガブリエル・ノーデ — その多彩な思想と図書館論をめぐって



講師 **伊藤敬 氏**

『図書館創設のための提言』 訳者

ガブリエル・ノーデ（1600–1653）は、図書館史の文脈の中では、近代図書館思想の開祖として『図書館創設のための提言』（1627）の中に掲げられた具体的な主張のいくつかをピックアップして箇条書きに示すのみという扱いに終始することが多い。しかし、ノーデはルネサンスと18世紀啓蒙思想をつなぐバロック期の「人文主義リベルタン」のひとりであり、デカルトの同時代人として数多くのポレミックな著作を執筆した特異な思想家で、マキアヴェリズムのフランス的展開を行う一方、サドをも凌ぐような大胆な無神論思想も展開している。今回はノーデの思想が持つ多彩な側面のスケッチを試みると共に、それが彼の図書館思想とどのように関わっているかについて明らかにしたいと思う。（講師記）



**3月11日** 土

**17:00 ~ 19:00**

**Zoom ミーティング**

ガブリエル・ノーデ『図書館創設のための提言』  
Gabriel Naudé, Avis pour dresser une Bibliothèque  
伊藤敬 訳、東京：日仏図書館情報学会、2022.8、119p  
ISBN:978-4-931253-05-6、定価：本体1,800円（税別）  
購入方法：事務局宛にメールにて（お問合せ先参照）

**参加自由（定員100名）**

**参加無料**

主催：日仏図書館情報学会  
お問合せ：日仏図書館情報学会事務局  
(sfjbibdoc@yahoo.co.jp)

参加申し込みはこちらから：  
<http://www.sfjbd.sakura.ne.jp/>

